

平成二十二年三月二十九日提出
質問第三二二一号

我が国の地球温暖化対策に関する質問主意書

提出者
馳
浩

321

我が国の地球温暖化対策に関する質問主意書

昨年コペンハーゲンで行われた第十五回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP15）では、一定の方向性は出されたが、鳩山総理が主張する「全ての主要国が参加する公平かつ実効的な枠組み」の本格的な構築までには到らなかった。これは、EU、米国、中国・インド、島しょ国の四つの軸が、まさに国益をかけて交渉に臨んでいたための当然の結果とも言われている。そのような中で、鳩山総理は、まさに「地球益」を考えた削減目標である一九九〇年比マイナス二十五%を掲げたわけである。

そこで、次の事項について質問する。

一 鳩山総理のこの「地球益」を考えた高い志は評価されるものの、我が国の「国益」をどう守り、かつ国際社会でどのような役割を担おうとしているのか十分明らかにされていないので、その戦略やビジョンについて、政府はどのようなお考えなのか政府の見解を問いたい。

二 そもそも地球温暖化問題において、政府は「地球益」と「国益」について、いずれを優先させようとしているのか。もしくは両立を考えているのか政府の見解を問いたい。

三 国際的な排出量取引は企業にとってマイナス要因ばかりである。安定しない排出量価格は企業経営の大

きなりリスクであると考えるが、現時点において、政府は国際的な排出量取引制度についてどのような評価をなされているのか政府の見解を聞きたい。

四　むしろ我が国は、その世界トップクラスの環境技術を活かして、途上国に技術提供して、そのような貢献が評価される仕組みの創設に尽力すべきではないのかとも考えるが政府の見解を聞きたい。

右質問する。